

# 改革待ったなし！ 土俵際の大相撲

慶応義塾大学商学部教授  
なかじま たかのぶ  
中島隆信

- \*競争制限的要素もつ日本の経営体
- \*実績次第で甘い年功序列が待つ
- \*相撲取りという特殊人的資本
- \*ガバナンスが全く存在しない
- \*相撲協会には総務部がない
- \*協会幹部や関取たちの脇の甘さ
- \*「防波堤」で内部を守り通す弊害
- \*大相撲にとつてのフエアネスとは
- \*横綱・大関を手軽に誕生させよ
- \*大相撲改革の要点あれこれ



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

こここのところ経済とか政治とかの話が続きました。特に大震災絡みの話が多かったです、今日はそういうところはちょっと離れて大相撲の経済学をお楽しみいただこうと思います。『大相撲の経済学』という本を中島先生がしばらく前に東洋経済から出されて、とても刺激的な内容で相撲好きにとつてはこたえられないような話がたくさん載っていました。

その後『ヤバイ経済学』という本が出て、千秋楽の日に7勝7敗の力士が勝つ確率は何%かということなどを経済学的に追究しているんですけど、中島さんがそれ以前に経済学を大相撲に適用したというのは画期的なことだったと思います。7勝7敗の力士が8勝6敗の力士に当た

ると勝率は8割というデータがあるわけですが、これは八百長の世界でもあるということ、大相撲の世界もある意味では人間的な魅力に満ち溢れているということかもしれません。

中島さんは正統的な経済学を研究されてこられていますが、経済倶楽部では前回、「お寺の経済学」というのをやっていただいて、これはとても面白かった記憶がおりと思えます。そのほか『オバサンの経済学』とか『障害者の経済学』とか、普通の経済学者が挑戦しない分野に挑戦されて、すばらしい業績を上げておられます。今日は大相撲の内幕も含めてたっぷり伺いたいと思います。それではよろしくお願いたします。（拍手）

中島 ご紹介いただきました中島です。20